

2020 年度 若手・女性研究者奨励金 レポート

研究課題	「保育の質」確保・向上のための音環境整備に関する研究
キーワード	①幼児教育、②保育の質、③音環境

研究者の所属・氏名等

フリガナ 氏 名	フジオ カノコ 藤尾 かの子	所属等	エリザベト音楽大学 音楽学部 音楽文化学科 幼児音楽教育専修 講師
プロフィール	エリザベト音楽大学大学院音楽研究科修士課程修了。広島大学大学院教育学研究科博士課程後期修了。博士(教育学)。平成 27 年より現職。 学部時代に学んだイタリア発の幼児教育のメソッドである「モンテッソーリ教育法」に興味を持ったことを起点に、修士・博士課程では、モンテッソーリ教育法における音楽教育について研究してきました。モンテッソーリ教育の幼稚園では、自然につくり出された静かな環境の中で、子どもが楽しそうに、かつ集中した様子で活動する姿が見られます。このようなモンテッソーリ教育の保育環境の特徴から本研究の着想を得ました。保育の質の向上に寄与することができるよう、音環境の視点からの研究を進めていきたいと考えています。		

1. 研究の概要

本研究では、モンテッソーリ教育を実施している私立の保育所、幼稚園、認定こども園（以下、モンテッソーリ園）における静けさの具体的な性質を明らかにすることを通して、保育の音環境における理想的な評価スケールの作成に示唆を得ることを目的とした。そのための手段として、研究計画を提出した当初は、全国のモンテッソーリ園における保育者の音環境に対する意識を調査するためのアンケートの実施に加えて、モンテッソーリ園での音環境の測定並びに音楽活動の実態を明らかにするためのフィールドワークを予定していた。しかしながら、新型コロナウイルスの蔓延により、幼稚園でのフィールドワークを実施することは不可能となった。よって、当初の研究計画を一部変更し、全国のモンテッソーリ園へのアンケート調査を通して、保育者の音環境に対する意識と音環境にモンテッソーリ教育が与える影響について明らかにすることで、保育における音環境の評価スケールを作成するにあたっての理論的基盤を構築することを目的とした。

2. 研究の動機、目的

乳幼児期の保育・教育をめぐる現状として、待機児童問題が深刻化しており、保育施設等の量的な拡大への対策は喫緊の課題として取り上げられている。しかしながら、量的な拡大が早急に目指される中で、子どもの健やかな発達や豊かな生活のための保育の「質」がいかに保障されるのかという点について懸念されている。このような現況において、近年の保育・幼児教育界では、質の高い乳幼児期の保育・教育が個人の幸せに資すること、さらには乳幼児期の保育・教育への投資効果が高いことが実証的に示され、保育の質の確保・向上について多角的に検討されてきている（OECD, 2001-2015）。

このように、保育の質を多角的に担保していくことが急務とされる中で、わが国の保育現場においては、音環境を改善する必要性も指摘されてきている（野沢他 2016）。具体的には、関東を中心に多くの幼稚園・保育所の音環境の測定に取り組んできている志村らによると、その多くで朝から夕方までの保育時間帯の平均値は騒々しい街頭から地下鉄の車内程度の音圧レベルであり、最大値は地下鉄の車内から電車のガード下程度の音圧レベルになることが明らかにされている（志村他 2014）。さらに、1つの保育所に在籍する 15 名の保育者を対象とし

た質問紙調査からは、保育者の音環境に対する意識は概して高いとは言えない結果であったと報告されている（石川他 2017）。

これまでに申請者は、モンテッソーリ園における保育環境の騒音測定、及び、保育者の音楽指導と子どもの音楽的発達を量的・質的に分析してきた。その中で、モンテッソーリ園における子どもの活動時間帯の音量は、比較的落ち着いていることが分かってきた。また、保育の中には音を意識的に聴く活動が導入されており、その活動を実施した後の子どもの姿として、音楽活動時において耳を澄ませて音を集中して聴こうとする姿や、精神的な落ち着きが見られた。しかしながら、これまでの申請者の研究や先行研究を含めて、保育者の音環境に対する意識調査や、音環境の視点から子どもの活動を質的に見取るといったアプローチは十分にはなされてきていない。また、モンテッソーリ園に焦点を当てた音環境についての先行研究に至っては、ごく僅かにしか存在しない。したがって、保育の音環境における質保証のためのエビデンスの蓄積は重要な課題だと言える。

以上より、本研究では、全国のモンテッソーリ園を対象としたアンケート調査を実施することで、モンテッソーリ園の保育者の音環境に対する意識を明らかにすることを目的とした。アンケート調査の概要は以下のとおりである。

①対象と方法

対象は全国のモンテッソーリ園で担任を受け持っている保育者である。調査の方法は、2021年2月に全国のモンテッソーリ教育を実施している481園に、申請者が質問紙を送付した。1つの園に対して保育者3名の回答を求めたが、場合によってはそれを下回る人数の回答も受け付けた。なお、アンケートの回答は郵送に加えて、Google Formsを利用した。回答の締め切りは同年3月下旬とした。また、これらを郵送した直後に追加調査をする必要性が生じたため、1つの園のみ同年5月にアンケートを郵送し、回答の締め切りを同年6月末とした。最終的に回答が得られたのは、260園、655名である。

②アンケート調査の内容

アンケートを作成するにあたり、本研究で得られた保育の音環境の実態と先行研究で示されている結果とを比較・検討するために、志村他（2004）及び石川他（2018）の作成した質問項目の一部を踏襲した。アンケート調査の内容は、以下の表1に示すとおりである。

表1 アンケート調査の内容

大項目	小項目	回答法
(1) 保育者のクラスについて	問1. 保育者のクラスの基本となる保育形態	多項選択法
	問2. 保育者のクラスの子どもの人数	自由記述
	問3. 保育者のクラスにおけるモンテッソーリ教育の実践の有無	二項選択法
	問4. 1日の保育におけるモンテッソーリ教育の「お仕事」の平均時間	4件法
(2) 子どもの声について	問5. 保育室内での子どもの声について（響き）	4件法
	問6. 保育室内での子どもの声について（賑やかさ）	4件法
	問7. 保育室内での子どもの声について（保育者の感じ方）	4件法
	問8. 保育活動中に子どもの声が保育者に届く（聞こえる）程度	4件法
(3) 保育者の声について	問9. 保育活動中に保育者の声が子どもに届く程度	4件法
	問10. 保育中に喉を酷使した経験の有無	二項選択法
(4) 保育室の音環境について	問11. モンテッソーリ教育の「お仕事」の時間における保育室の音の程度	4件法
	問12. 「お仕事」以外の保育時間（外遊びを除く）における保育室の音の程度	4件法
	問13. モンテッソーリ教育の考え方や方法が保育の音環境に影響しているか	二項選択法
	問14. モンテッソーリ教育のどのような点が保育の音環境に影響しているか	自由記述
	問15. 保育しているときに気になる音について	自由記述
	問16. 保育室の隣室・他室の音について（保育者の感じ方）	4件法
(5) 音楽活動について	問17. 音楽活動の実施形態	多項選択法
	問18. 主に実践している音楽活動について	自由記述
	問19. クラス全体の子どもの歌声について	4件法
	問20. 音楽活動に取り入れているモンテッソーリ教育の考え方や方法について	自由記述
	問21. モンテッソーリ教育の「静粛の練習」の有無について	二項選択法
	問22. 「静粛の練習」が子どもの音楽活動に与える効果について	自由記述

表1に示す「お仕事」及び「静粛の練習」は、モンテッソーリ教育において専門的に使用さ

れる用語である。「お仕事」とは、子どもが保育室に準備されているモンテッソーリ教具を自由に選択し、個人でその活動に取り組むという一連のプロセスを意味する。一方、「静粛の練習」とは、保育者とクラスの子ども全員が、可能な限りの静けさをつくる活動である。この活動を通して、子どもは音を集中して聴く姿勢や、身体の動きを調整する力を身につけていくことが目指されている。

3. 研究の結果

ここでは、アンケートの質問項目 5・6・7・11・13・14 について報告する。下記の図 1 は、保育者の子どもの声に対する意識について、①保育室における子どもの声の響きと、②保育者がその響きをどの程度賑やかに感じているのか、さらに、③その声がどの程度気になるか、という 3 つの観点からの結果を示している。なお、各質問への回答者数は、問 5 が 645 名、問 6 が 648 名、問 7 が 652 名であった。子どもの声の響きについて、「やや響く」と感じている保育者は全体の 60%と最も割合が高く、「とても響く」と感じている保育者は 13%だった。その一方、「あまり響かない」と感じている保育者は 25%であり、「全く響かない」と回答した保育者は 1%であった。また、子どもの声について、「やや賑やか」であると感じている保育者は全体の 56%であり、「とても賑やか」であると回答した保育者は 15%であった。それに対し、子どもの声を「やや静か」と感じている保育者は 27%であり、「とても静か」とであるという回答は 1%であった。

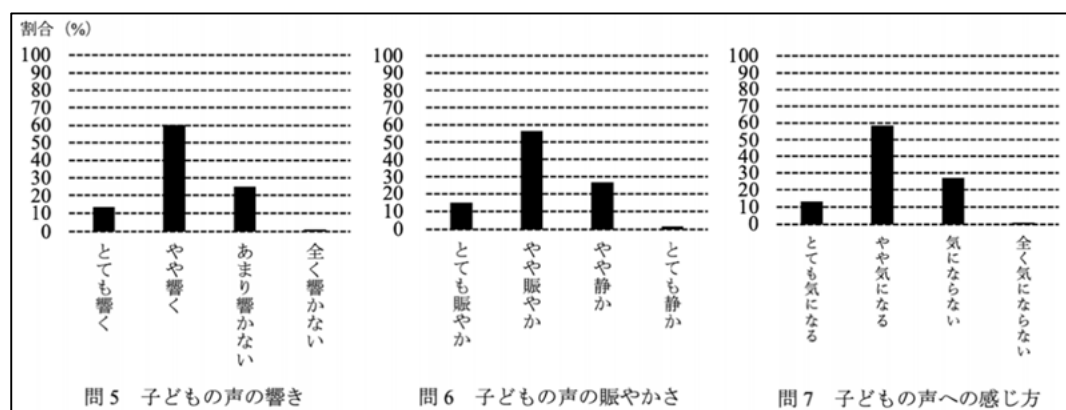


図 1 保育者の子どもの声に対する意識

上記3つの観点から保育者の子どもの声に対する意識について調査している志村他（2004）は、公立及び私立幼稚園・保育所の138名の保育者が子どもの声を「響く」と感じ、それを「賑やか」であると意識する傾向があるものの、「気にならない」と回答した人数は全体の30%を上回ったと報告している。これらの結果から、保育者は響きや賑やかさに慣れている可能性が示唆されたと結論付けている。他方、申請者の調査において、子どもの声を「響く」「賑やか」と感じている保育者はいずれも全体の70%を超えており、それらが「気にならない」「全く気にならない」と回答した保育者は30%をやや下回る結果だったことから、両調査の結果に大きな差異が見られなかった。ただし、各質問の結果に関連性が見られる可能性もあるため、今後、得られたデータを詳細に解析していく。

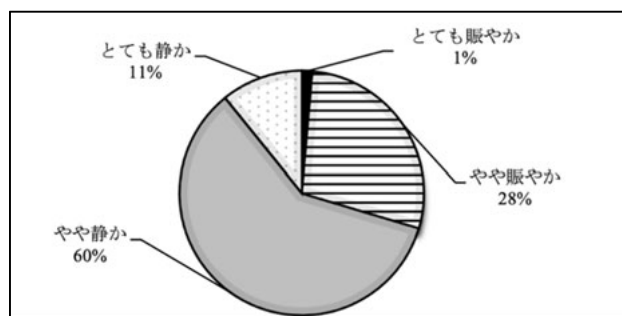


図 2 「お仕事」の時間における音の程度

このように、モンテッソーリ園の保育者は、普段の保育の中で、子どもの声を「響く」「賑やか」と感じている割合が高いことが明らかになったが、その一方で、モンテッソーリ教育の方法論上における特性が音環境に影響を与えていそうなことも浮かび上がってきた。図2は、アンケートの間11. モンテッソーリ教育の「お仕事」の時間における保育室の音の程度の結果を示している。問11の回答者数は、648人であ

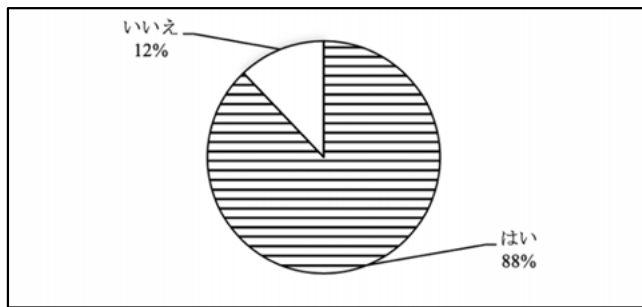


図3 モンテッソーリ教育が音環境に影響しているか

のような点が保育の音環境に影響しているか、である。問13の回答者数は644名であった。その結果、図3に示すように、全体の88%の保育者が「はい」と回答していることから、多くの保育者はモンテッソーリ教育の特性が音環境に影響していると実感していることが明示された。その具体的な理由を尋ねる問14の自由記述の分析には今後取り組むが、「子ども一人ひとりが集中することで、自然と静かな空間が生まれる」「保育者自身も、子どもと関わる際に必要以上の言葉を発さず、モンテッソーリ教具の使い方などは動きを分析して見せる『提示』という方法を用いるため静かである」という回答が多かった。

以上から、子どもが個別に活動に取り組むというモンテッソーリ教育独自の形態と、子どもを集中へと導くモンテッソーリ教具の構造、さらに、そのような子どもの個別活動を支える保育者の関わりが相伴い、保育における静けさが生起していそうであることが浮き彫りとなった。

4. 研究者としてのこれからの展望

本研究を通して、わが国のモンテッソーリ園においては、モンテッソーリ教育の理念に基づく環境設定や保育が、「静けさ」を生成するという仮説を裏付けるデータを提示することができた。しかし、当然のことながら、園の音環境は教育方法によってのみ規定されるのではなく、園の所在する周囲の環境や園舎の建築学的な構造によっても左右される。だからこそ、本研究で取り組んだ音環境を質的に見取ることに加え、モンテッソーリ園における音環境の音量測定や、保育の実際を観察することで、質と量の両側面から音環境の実態を調査していく必要がある。

今後の展望としては、モンテッソーリ園での音量測定と保育活動の実態についてのさらなる調査を通して、音環境と子どもの発達を質・量の両側面から捉える。それらを通して、保育の音環境における理想的な評価スケールの作成に貢献することを目指したい。

5. 社会（寄付者）に対するメッセージ

この度のご支援を受けることで、モンテッソーリ園における音環境はモンテッソーリの教育思想が深く影響しているということを、客観的なデータのもとで解明することができました。

現代の社会環境は大きな音や騒音で溢れていますが、「失われた聴覚は二度と戻ってこない」と言われることから、私たちは「聴く」ということに対してより一層真剣に考える必要があると考えています。また、私たち大人は、そのような騒音環境から子どもを守るという責任もあると感じています。

子どもにとって音環境は、コミュニケーションをとることや、自らの活動に集中して取り組むこと、また、音や声を聴きながら行う音楽活動を実施する上で重要な役割を果たしています。子どもが保育所や幼稚園で快適に生活し、健やかに成長することができるよう、今後も保育における音環境の視点から研究を継続してまいります。

本研究の遂行にご支援を頂きました、日本私立学校振興・共済事業団とその関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

った。「お仕事」に取り組んでいる子どもに対する保育者の印象として最も多いのが「やや静か」の60%であり、「とても静か」については11%であった。すなわち、70%を上回る保育者が、「お仕事」の時間は、静かな音環境であると実感しているのである。そして、この結果と併せて考察すべき質問が、問13. モンテッソーリ教育の考え方や方法が保育の音環境に影響していると思うか、及び、問14. モンテッソーリ教育のど